

平成27年度
自己点検・評価報告書
(抜 粋)

鎌倉女子大学 幼稚部

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の園運営を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づいて、下記の教育目標をもち、教職員で協力して実現化を図る。 ～人・物・時を大切にし、感謝の気持ちをもって園生活を送る子どもを育てる～ ～遊びを通して豊かな体験ができるようにし、たくましく生きる子どもを育てる～ <目指す子どもの具体的な姿> ①人と親しみ、人とかかわることに喜びを感じる子ども ②物を大切にし、扱い方を自分で考え、自分で工夫する子ども ③様々なことに挑戦し、一生懸命取り組む子ども ④生活のなかで、ありがとうの言葉が自然に出る子ども ⑤ルールを守り、けじめのある生活を送る子ども
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育目標」や「目指す子どもの姿」を全職員に周知し、年間の指導計画のなかに取り入れ、日々の保育の反省のなかでも、意識して話題に取り上げるようにした。その結果、各教員の意識も高まり、園全体で下記の子どもの育ちが見られるようになった。 ・様々な人への親しみが増し、積極的に人とかかわろうとする子どもの姿が多くなった。 ・廃材の使い方等にも工夫が見られ、保護者も様々な不要になったものを捨てずに幼稚部に提供して下さるようになった。 ・行事や普段の活動のなかで、わが子の真剣に取り組む姿が見られるようになったことで、保護者にも大変評価していただいた。 ・様々な場面で、ともだちや身近な大人の人に対して、自然にありがとうの言葉が出るようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがルールを守り、けじめのある生活を送るには、家庭環境の影響が強くあり、幼稚部だけでは身に付けられない面も多い。今後は、機会あるごとに、「幼稚部だより」や懇談等でもその内容について保護者に伝え、保護者が幼稚部と同じ目標をもって子育てができるように働きかけていく。 ・幼稚部の教育活動は、保護者にも理解をいただきながら推進できているが、新たなことを始める時などは、保護者の疑問、質問には丁寧な答え、納得していただいてから始めるようにしていく。

1-②	・園の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	<p>①教材研究を行い、より良い教育環境をつくり、保育内容の充実を図る。</p> <p>②園内研究や研修などを通して、教員の質を高める。</p> <p>③保護者との連携を深め、幼稚部教育への理解を得る。</p>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・機会あるごとに、各教員が書籍を持ち寄ったり、研修内容を報告し合ったりしたことで、教員同士の教材研究意欲が高まり、特に室内の教育環境がより良いものとなった。その結果、保育内容も充実させることができた。 ・神奈川県私立幼稚園連合会主催の公開保育会場となり、下記について経験できたことで、各教員の成長しようとする意欲がより高まり、質も高まった。 ・大学の教員や他園の教員を招いて、公開保育前の園内研修を行うことができたことで、教員の視点が広がった。 ・他の園の公開保育にも参加して学ぶ機会をもったことで、教員としての動きを考察し、自分たちの動きに生かすことができた。 ・公開保育当日には、県内の多くの教員に幼稚部の保育を見ていただき、良い評価を得たことで、自分たちの保育の良さを認識し、今後の保育の在り方を再確認することができた。 ・一人ひとりの教員のかかわり方を、保育打ち合わせのなかで全教員が共通理解し、何か問題があれば、全教職員で対応するという意識をもつようにしたことで、保護者とのかかわりがスムーズになり、信頼も得られた。 ・行事等の際は、必ずアンケートをとり、その内容に対して、丁寧に説明責任を果たしたり、可能なことは次に生かしたりしたことで、園教育への理解も深まり、協力も得られるようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の質を高めるとい点では、教員に個人差があり、教員の気持ちを受け止めながら成長をどう支えていくかが、今後の課題となる。改善策としては、次のように考えている。 ・仕事時間以外でもリラックスして話ができる場面を、どの教員にも意識的に設けるなどして、精神状態を把握していく。 ・部長（園長）・次長で連携をしながら、全教職員で支え合う温かい職場の雰囲気をつくっていく。 ・仕事面でも、部長（園長）・次長と共に保育者の悩みをよく聞き、適切にアドバイスをしていく。

2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 4月当初の職員会議で、教育課程の話し合いをし、教職員間で共有できるようにする。 3学年を通しての教育課程が、幼児の実態に即しているか、学期ごとに全職員で検証し、次学期に活かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程については、職員間で共有し、学期ごとに見直しを行ったことで、修正しながら次学期に活かしていくことができた。 学期初めや行事の時などは、教育課程に基づき、特に綿密に保育活動の検討を行ったことで、幼児の実態に即したより充実した内容の保育を実施することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での経験不足から、生活習慣や技能面での幼さが見られる幼児が増えてきているため、次年度は、教育課程のなかにもそれらに関する項目を入れて、教員が意識して指導にあたるようにしていく。

2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の指導計画や週案などが適切に作成されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の指導計画や週案は学年間で話し合っ提出するようにし、全教員がその内容を把握し、連携しあって保育にあたるようにする。 ・週案作成にあたっては、学年ごとに前週の金曜日に反省を行い、次週に生かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・週案作成にあたっては、3学年が、それぞれに他学年の様子を把握しながら作成していたため、3学年の発達の理解もスムーズとなり、学年の幼児に即した保育活動を実施していくことができた。 ・週案の打ち合わせを定期的に行ったことで、学年の担任同士が、同じ方向性を持ち、連携をしあって保育にあたることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、日案は各自で書くのみで、他の保育者に提出はしていなかったが、他の保育者の動きを互いに理解して動くことの必要性が出てきたため、次年度に向けては、次のように改善していく。 ・日案は毎朝提出し、それをもとに朝の打ち合わせを行い、日案のなかの環境や、保育者の動きで気づいたことは、部長（園長）・次長と共にアドバイスをしていく。

2-③	・教育週数、1日の教育時間が適切に確保されているか。
取組目標	・文部科学省の基準を守った上で、幼児の実態を考慮した無理のない教育週数、教育時間のなかで保育を行う。
取組内容 と成果	・入園初期や長期休業後の保育時間を、幼児に無理のない保育時間に設定し、少しずつ通常の保育時間にしていったことで、幼児の集団生活への適応がスムーズに行われた。 ・週の半ばの水曜日の午前保育は、集団生活の疲れを癒す上でも幼児には必要であった。 ・これらのことを考慮した上で、1年間を通しての教育週数や教育時間は十分に達成することができた。
今後の課題 と改善策	・今後も無理のない範囲で、教育週数、教育時間を確保する。

3. 指導

3-①	・ 幼稚園教育要領の内容や設置者が定める基準（学則）にのっとり、幼児の発達に即した指導が適切に行われているか。
取組目標	・ 幼稚園教育要領を、全教員で共通理解し、幼児の実態に即した指導を丁寧に行う。
取組内容 と成果	・ 週の打ち合わせや、日々の保育後の全体ミーティングのなかで、幼稚園教育要領に基づいた各幼児の姿について具体的に出し合ったことで、幼児の姿を共通に捉えてかかわっていくことができた。
今後の課題 と改善策	・ 教員たちの幼稚園教育要領の理解の仕方に個人差があるため、教育課程の話し合いをする際には、これまで以上に意識して幼稚園教育要領にも触れていく。

3-②	・日々の保育において遊具・用具の活用が図られているか。
取組目標	・書籍研究や研修などを通して、全教員で活用の仕方を学ぶ機会をつくり、保育のなかに生かしていく。
取組内容 と成果	・現在ある遊具や用具を再点検し、全員で活用の仕方を話題にし合うようにしたことで、活用を図ることができた。
今後の課題 と改善策	・園庭遊具の活用の仕方においては、まだ改善できる点があるため、次年度には、園庭プロジェクトのチームを作り、更に活用を図っていきたい。

3-③	・園行事が適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	・怪我や事故のないように、幼児の動きに十分に配慮した内容を園行事の計画のなかに盛り込んで行事を行う。 ・保護者も参加する園行事の際は、地震などの災害を想定した際の保護者の動きも盛り込んで実施する。
取組内容 と成果	・どの行事においても、幼児や保護者ともに怪我なく、事故が起きることもなく、無事に終わることができた。
今後の課題 と改善策	・今後も気をゆるめることなく、園行事の実施にあたっていきたい。

3-④	・チーム保育などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
取組目標	・担任とフリーの教員が連携を取り合って保育にあたる。
取組内容 と成果	・日々の保育前に、担任とフリーの教員の動きを確認し合い、保育後には、反省をして翌日の動きに活かしていくようにしたことで、連携をとりながら保育を進めていくことができた。
今後の課題 と改善策	・保育中の学年全体のフリーの動きや、保育後のフリーの動きが、幼稚部の運営のなかで、更に効果的になるように、次年度は、フリーの役割分担をより明確にしている。

3-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校 3 部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼小連携など園・学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。 ・中・高等部との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校ならではの良さと特色を生かした幼稚部運営を行う。 ・他部との連携をより丁寧にとり、様々な取組が生きたものとなるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部、中・高等部との交流が、互いに有意義なものとなるよう、内容を吟味し、打ち合わせも丁寧に行ったことで、昨年よりも充実したものとなった。 ・初等部との合同研修会も、実際の教育の様子を伝え合う内容だったため、互いの教育内容を具体的に知っていくのに、大変有意義なものとなった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部への内部進学率を高めていくために、幼稚部側でできることは、更に工夫していく必要があるが、初等部側にも、保護者が初等部に何を望んでいるのかを伝えて、可能な限り改善を図っていく。 ・初等部入学時期のスタートカリキュラムについては、幼稚部側からも意見を述べ、内部進学した幼児が、よりスムーズに慣れていけるようにする。 ・他部の児童・生徒や教員が、より気軽に幼稚部に足を運んでもらえる機会を意識してつくり、併設校ならではの良さを、保護者にもアピールしていけるようにする。

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> 大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 大学の教員や学生の力を可能な限り活用し、幼稚部の教育がより充実したものとなるようにする。 園内研修の際には、大学の教員も招集し、指導を仰ぐ。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 行事や普段の活動のなかで、多くの学生ボランティアの協力を得ることができ、幼児、保護者にも大変好評であった。 たんぼぼクラスでのボランティアを経験してきた学生は、幼稚部に勤務してからも幼児とのかかわりがスムーズになる面があるため、今後も大切に継続していきたい。 園内研修には、何度か大学の教員も招集し、指導を受けることができたため、大変学びのある研修を行うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 大学の教員や学生と、幼児との触れ合いの機会を意識してつくる。 大学の専門的な知識や技術などを幼稚部でも生かす。 大学の施設への園外保育、学生ボランティアの積極的受け入れ、大学の教員による講演会や研修会などでの指導など、併設校の良さや特色を幼稚部教育のなかに生かしていく。

4. 保健管理

4-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断が適切に実施されているか。
取組目標	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に基づき日常の保健管理を適切に行う。 ・保健センターと連携を取り合い、疾病予防、健康診断を適切に行う。 ・家庭とも連携をとりながら、日常の健康観察を細かに行う。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・疾病予防のための取組、健康診断を適切に実施する。
取組内容 と成果	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センターと連携をとりながら、幼稚部の保健担当が中心になって適切に疾病予防、健康診断を実施することができた。 ・インフルエンザなどの感染症が出た時は、保健センターの指示を仰ぎながら、家庭とも連携をとり、適切に対応して感染症の拡大を防ぐことができた。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に則り、保健活動を行った。その結果、健康診断・環境整備・保健指導等を円滑に行うことができた。 ・毎月「ほけんだより」を発行し、家庭での健康管理について啓蒙することができた。 ・幼稚部で使用する薬品等の頻度を把握し、適時購入を進めた。その結果、職員室、クラス、バスの薬品の管理保管・補充を適切に行うことができた。 ・手指消毒用アルコールを園内に設置し、活用した。 ・冬季にはうがい・手洗いをこまめに指導することにより、感染症の蔓延防止に努めることができた。 ・年間を通じて、室内の換気をこまめに行うよう指導し、感染症蔓延防止に努めることができた。
今後の課題 と改善策	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾病予防をしていくにあたり、保護者に対して、園からの便りに予防法を掲載するとともに、懇談会の機会にも予防の仕方等について話をしていく。 ・教員の食育指導に対する意識を高めるため、次年度は、弁当や調理活動時などを活用して指導するよう工夫していく。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センターと保健担当の連絡が密に取れており、円滑な保健活動が行われているため、今後も継続できるように努めていく。 ・学校感染症発生時における保健センターへの連絡経路について、情報を一本化することにより、改善できることであるので、保健担当と検討し、改善に努めたい。

5. 安全管理

5-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。 ・園事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。 ・園舎や通園路等の安全点検や教職員・幼児の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や用具の安全点検を日々行い、安全に十分留意した保育を行う。 ・危険な状況が起こった場合を想定して保育計画をつくり、職員の動きを訓練しておく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の振り返りのなかで、安全管理についても反省をし、反省点があれば、翌日に生かすことを継続したことで、大きな怪我や事故も無く、幼稚部の運営を行うことができた。 ・朝の準備のなかで、安全を確認してから保育に入るようにしたため、怪我や事故の予防も行うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を守るための計画を、再度見直して全教員が確認できるようにし、教員の安全対応能力と意識が更に高まっていくようにする。 ・ヒヤリハットマップの点検をし、安全対策をより強化していく。

5-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防火・防災計画を整備した上で、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。 ・ 引き取り訓練等を通じて、各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚部独自の避難訓練を7回、岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、屋内消火栓取扱い訓練を1回行った。 ・ 保護者対象の行事として引取り訓練を2回、救命救急講座を1回行った。防災意識を高め、AEDの使用方法や心肺蘇生法等を学ぶことができた。 ・ それぞれの訓練において、園児、保護者、教職員が、安全確保のための基本行動を再確認することができた。 ・ 「塩おにぎりの日（昼食時に塩おにぎりだけを園児が食べ、食べ物の大切さを学ぶ催し。）」や防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、園児の災害時の食事に対する意識を高めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な場面を想定し、園児や保護者を含めて有事に対応できる訓練を今後も継続したい。 ・ 特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、初等部や中・高等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていき

6. 組織運営

6-①	<ul style="list-style-type: none"> ・園長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が互いを思いやりあいながら、楽しく意欲的に勤務できるように、部長（園長）は、主任と共に率先して温かい職場の環境をつくる。 ・教職員が同じ思いで幼稚部の教育に情熱を傾けられるように、部長（園長）は、リーダーシップを発揮して幼稚部の運営を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事に対しては厳しい態度で臨むが、それ以外の時間では、全教職員が穏やかな雰囲気配慮したため、教職員はメリハリのある働き方ができていた。 ・どのような時にも部長（園長）が最終責任をとることを明確にしていたため、教職員たちは、安心して仕事に取り組んでいた。 ・教職員たちは、部長（園長）を信頼し、仕事上の迷い、悩み、失敗などがあると、常に部長（園長）へ相談を行っていたため、問題を大きくすることなく解決することができていた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・部長（園長）は、教員一人ひとりの心身の状態を常に把握するようにして、丁寧に配慮していく。

6-②	・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが、自分に与えられた園務について責任を持って行う。 ・他の人に迷惑をかけないように、期日を守りあう。 ・報告、連絡、相談を守り合って、園務がスムーズに遂行されるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の園務の引き継ぎが適切にできていたため、滞りなく次の担当者が業務を進めることができた。 ・教職員同士が互いに声を掛け合い、助け合いながら園務を遂行したことで、園運営も、スムーズに行うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・園務に対して、うまく時間配分が取れるように、仕事の進め方のアドバイスをし、スムーズに遂行していけるようにする。

6-③	・職員会議等が園運営において有効に機能しているか。
取組目標	・学期初めや、大きな行事前、必要と思われる時には、必ず職員会議を行い、教職員が同じ思いを持って取り組んでいけるようにする。
取組内容 と成果	・全員が共通に理解し、同じ思いで進んでいけるように、職員会議で話し合った後にも、その都度再確認するようにしていったため、スムーズな運営をすることができた。
今後の課題 と改善策	・今後も職員会議を有効に機能させて、園運営をスムーズに行っていく。

6-④	・各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	・文書や情報が外部に漏れないよう適切に管理し、教職員にも必要に応じて、その都度、適切に周知する。
取組内容 と成果	・これまでも教職員には、十分に周知してきたため、問題が起きることはなかった。 また、退職する職員にも適切に対応してきた。 ・文書や情報管理は、責任を持って部長（園長）と主任が行い、問題はなかった。
今後の課題 と改善策	・今後も引き続き、適切に対応していく。

7. 研修（資質向上の取組）

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保育研究を全教員が行うことや、保育研究を継続的に実施することなどを通じ、指導改善に全校的に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究を定期的に行い、全教員の保育向上を目指す。 ・園内研究の在り方を工夫し、より有意義な内容となるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員で同じ保育場面を見合い、話し合いをすることで、保育の見方、方法を具体的に確認し合うことができた。 ・テーマに基づき、保育場면을写真に撮り合ったことで、その写真を見ながら共通に話し合うことができた。 ・大学の教員と話し合う機会を設けたことで、より研究内容を深めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部全体の保育の質を上げていくには、教員個々の保育の質を上げていく必要がある。そのためには、外部での研修の機会をより多く取れるようにし、先輩教員が、指導する機会も意識して設けていく。

7-②	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修・園外研修の課題が適切に設定され、実施されているか。 ・教職員が積極的に園内研修・園外研修に参加しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの教員が研修に参加できる体制を整える。 ・幼児の夏休み、冬休みの期間は、研修内容も多いため、全教職員で話し合いながら、より多くの内容に参加できるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が自分の課題をもって研修に参加しあったことで、研修内容を、その後の保育に生かす姿が多く見られた。 ・研修の報告をしあう機会を必ず設けたことで、他の研修についても互いに学び合うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の課題、研修目標を記述したものを表にして全教員に知らせ、その成果報告をしあう機会をつくることで、各自の課題解決をより明確にしていく。

7-③	<ul style="list-style-type: none"> ・園長等の管理職が定期的に保育観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。 ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の状況を常に把握し、必要に応じてその都度指導をしたり、保育反省に加わって助言をしたりして、保育内容がより良いものとなるようにする。 ・指導が不適切な教員に対しては、その教員の心身の状態を把握すると共に、適宜指導の機会を設けるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の際は、できるだけ保育の具体的な場面をもとに指導するようにしたため、教員も理解しやすく、良い方向に変化させていくことができた。 ・教員の良いところ、得意なところを積極的に發揮してもらおうようにしたため、自信をもって仕事をする教員の姿が多く見られるようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・指導・助言をしても向上が見られないと判断した教員に対しては、適切な指導にあたる。

8. 保護者・地域社会等との連携

8-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が園運営に参画し、協力できる体制を整えているか。 ・保育ボランティアを集めるシステムができているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく無理なく園運営に協力していただく体制をつくり、保護者の協力を得る。 ・保育ボランティアは、たんぽぽクラスや幼稚部の行事・活動に積極的に入っていただけるよう、大学の教員とも連携をとったり、学生にも直接勧めていったりする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の行事や活動にも気軽に参加しやすいよう、学生に合った内容を計画したため、多くの参加があり、やりがいも感じてもらうことができた。 ・たんぽぽクラスの学生ボランティアには、無理のない形で協力してもらえよう、たんぽぽクラスの教員と連携をとりあったため、有意義な活動ができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、大学の教員と連携を取り合いながら、学生ボランティアの参加できる場面や内容を、意識してつくっていく。

8-②	・園公開を定期的に行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・園公開に対しては、可能な限り積極的に行い、理解を得るようにする。 ・在園児の保護者にも、口コミで園見学ができることを知らせていただく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、神奈川県内の教員たちに対して公開保育を実施したことで、幼稚部の教育の実際を、より深く知っていただくことができた。 ・入園案内の資料請求があった方には、必ず園見学を勧めるようにしたため、より多くの方に幼稚部教育の良さを知っていただくことができ、結果として入園数も増えることとなった。 ・在園児の保護者の口コミで、より多くの方に見学していただくことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もこれまで同様、気軽に園見学をしていただく体制を全教職員でとっていく。

8-③	・保護者の園への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。
取組目標	・アンケートや面談、懇談などを、必要に応じて実施し、保護者の思いを適切に把握して対応する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容に関して、改善できることがあれば、即応じる姿勢で対応してきたため、園運営への理解度も深まり、より協力していただけるようになった。 ・全体懇談会やクラス懇談会の機会を利用し、必要なことは早めに知らせ、疑問や質問には丁寧に答えるようにしてきたため、大きな混乱や問題はなく、園運営を進めることができた。
今後の課題 と改善策	・今後も、すべての事に対して、早めの対応を心がけ、保護者の質問や疑問には、説明責任を丁寧に果たしながら、理解を得るようにしていく。

8-④	・教育相談体制を整備し、保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
取組目標	・保護者の要望や意見には真摯に対応し、納得していただくまで丁寧に向き合う。 ・改善できることがあれば、即対応したり、次の機会に活かしていったりする姿勢を見せていく。
取組内容 と成果	・行事等は、必ずアンケートをとり、質問や疑問があれば、即答え、改善できることは改善するようにしたことで、保護者も園に協力的な気持ちで、アンケートを書いてくださるようになった。
今後の課題 と改善策	・何か新しいことを始める際には、そのことをする意義、良さなどについて、より丁寧な説明を行うことに十分留意し、保護者の要望等にも適切に対応していく。

8-⑤	・園便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
取組目標	・「幼稚部だより」「学年だより」「クラスだより」「園長からのお知らせ」など、必要に応じて発行し、保護者の理解をその都度得られるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて各種の便りを発行してきたことで、保護者も安心してわが子の成長を見守ることができていたようである。 ・急を要する時には、メール配信も行うなどして、保護者が不安なく的確に情報を得られるようにしたため、保護者も安心されていた。
今後の課題 と改善策	・今後も、保護者が不安にならないよう、早めに便りを発行するよう心がけていく。

8-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の実情や要望による預かり保育が適切に実施されているか。 ・園や教職員による受入れ体制が十分に整っているか。 ・預かり保育の実施について、幼稚園の目的、教育課程との関連、幼児の負担、家庭との連携等への配慮が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の場が、保護者にとっても、幼児にとっても安心して過ごせる場となるようにする。 ・預かり保育が、幼児にとって無理がないように、保護者と連携しながら進めていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・夕方6時までの預かり保育や、長期休業中の預かり保育は、働いている母親に大変好評で、人数も増えてきている。 ・預かり保育の内容をより充実させたことで、預かり保育を多く利用している子どもでも楽しんで過ごしている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、働く母親がますます増えていくことが予想されるため、預かり保育の時間や預かり方も、状況を見ながら、時代に対応して進めていく。

8-⑦	・保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動が適切に実施されているか。
取組目標	・地域の方に向けた子育て支援活動を、可能な限り行う。
取組内容 と成果	・公開行事や見学の際に、子育ての相談を受け、また定期的な相談にも対応することで支援活動を行った。 ・「幼稚部へようこそその会」への参加者が増えてきているため、このなかでも、可能な範囲で子育て相談などの支援活動ができた。
今後の課題 と改善策	・「幼稚部へようこそその会」での相談活動を、子育ての支援活動の一つとしてとらえ、内容を充実させていけたらと考えている。

8-⑧	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	・地域に出かけたり、地域の方との交流を進めたりして、幼児が豊かな体験をできるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの神社の方とは、夏祭りのお神輿づくりや七五三のお参りなどでお世話になり、幼児たちも、貴重な体験をすることができた。 ・遠足による、鎌倉の名所歩きは、幼児や保護者も喜ばれる体験となった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、幼児により豊かな体験をさせたいと考えている。幼稚部の近隣の施設にも、多くの面白い体験ができる所があるため、積極的に保育のなかで出かけるようにしていくと共に、大学の施設内でも、幼児が興味を持てる場所を探して、訪ねていくようにしていく。

8-⑨	・教育実習生の受入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	・実習生の受け入れは、積極的に行い、教職員の協力体制のもと、意義ある実習を行う。
取組内容 と成果	・希望をした学生はすべて受け入れ、どの学生も最後まで実習を終えられるよう支えることができた。
今後の課題 と改善策	・今後も、可能な限り実習生を受け入れていき、意義ある実習ができるように協力していきたい。

9. 入試・広報活動（情報提供）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育活動についての説明会を実施したり、入園案内を配付したり、ホームページを活用するなど、園に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。 ・ホームページに園長名、園の所在地、連絡先、学級数、幼児数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。 ・幼児等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・園児募集に向けて、園の教育活動の実際や情報を、多様な媒体を用いて分かりやすく伝えていく。 ・ホームページの効力を最大限に生かしていくために、内容を工夫し、タイムリーに更新していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容を工夫し、タイムリーに更新してきたことで、アクセス数も増え、幼稚部教育を多くの方に周知することができ、入園者増にもつながった。 ・掲示板など、他の媒体の良さも効果的に使ったことで、より多くの方に幼稚部を周知できた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、入園案内のパンフレットよりも、ホームページで幼稚部の様子を知ろうとする方が増えていくと予想されるため、これまで以上にホームページの内容をより充実させていくことに力を注いでいく。

10. 教育環境整備

10-①	・施設・設備の整備・活用等が適切に図られているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に点検をし、必要に応じて修理を行って安全に使いこなしていく。 ・施設・設備の効果的な使い方を、全教職員で書籍や研修から学び合う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に点検をしていったことで、修理も早めに行うことができ、安全な使い方をすることができた。 ・他園の施設見学や書籍などを通して全教職員で学び合ったことで、施設・設備の効果的な使い方をすることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、上記のことを継続して行っていくと同時に、施設・設備の効果的な使い方には、まだ工夫の余地があるため、更に全教職員で研修を深めていきたい。

10-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全を確保する ・施設・設備の機能を維持する。 ・より快適な環境で園児が幼稚園生活を送れるよう環境整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・建物簡易診断を受診した。 ・昨年に引き続き、カトレア館床の補修工事を行った。本年は2階保育室及び廊下のフローリングを実施した。 ・年度末に平成28年度のクラス編成に合わせ、2階保育室の改修工事を行った。 ・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・建物診断の結果から今後の保守計画を立て、実施する。 ・空調機の交換を計画通り進める。 ・カトレア館の受水槽の更新が必要である。 ・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。

10-③	・遊具・用具・図書等の整備や園教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	・遊具・用具・図書などの整備を全教職員で定期的に行う。 ・ホームページや掲示板を効果的に使い、園教育をより多くの人に知らせていく。
取組内容 と成果	・遊具や用具に関しては、週末に全教職員で整備をするなどした結果、修理しながら大切に使うことができた。 ・図書に関しては、保護者のボランティアの方にも手伝っていただいたことで、修理をしたり、整理整頓をしたりしながら使うことができた。
今後の課題 と改善策	・今後も定期的に、整備をしたり、整理整頓をしたりして、適切に使っていきけるようにしていきたい。

11. 事務支援体制

11-①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚部の教育活動における支援が適切に行われているか。 ・ 幼稚部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。 ・ 幼稚部の募集業務補佐と支援の充実を図る。 ・ 募集人員充足に向け、①入園案内制作、②「幼稚部へようこそ」運営、③広報媒体等への交渉、④ホームページ運営等の支援活動等の活動を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・ 各自治体による「私立幼稚園就園奨励費補助金」の申請交付事務に関して、自治体により処理が異なり煩雑さは否めないが、経理部と協力し迅速かつ正確に処理を行うことができた。 ・ これまで経理部で作成していた業者支払いの勘定伝票や、扱いを厳格化するために預り金についての新たな帳票を支援室で作成するようになり、事務処理の合理化・厳格化に貢献している。 ・ 入園案内制作支援やパンフレット制作会社へのアドバイス等、幼稚部担当教員のパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた交渉を実施した。 ・ 幼稚園入園ガイドブックへの掲載交渉、並びに掲載する記事の制作を行った。 ・ 入園志願者等からの電話での問い合わせに関する対応支援活動を実施した。 ・ ホームページ運営業者との折衝、並びに運営改善に向けた交渉を実施した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛けたい。 ・ 預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図りたい。 ・ 通園バスの運行については、登・降園や遠足の送迎、大船キャンパス等への移動手段として利用の機会を増やしているが、更なるバスの有効活用を行いたい。 ・ 幼稚部の募集定員の充足に向け、幼稚部教員の募集活動の支援充実を図る。 ・ 計画的な募集活動の補佐に加え、保育活動を効果的に伝える行事運営の支援等を行い、志願者数の維持を図る。 ・ 幼稚部・初等部間の進学接続支援の増強を図る。

12. 自己点検・評価

12-①	<ul style="list-style-type: none">・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているか。・全教職員が評価に関与しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none">・学期ごとに自己評価を行い、全教職員の前で各自が反省点を出しあって次学期に生かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none">・学期末や、学期の初めに、自己評価についての話し合いをし、日常の保育に生かしていくようにしたことで、各教員の仕事に向かう気持ちがより強まり、成果が出た。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none">・今後も、全教職員が評価に関与し、園運営に成果がでるように継続していきたい。

12-②	・自己評価の結果が具体的な園運営の改善に活用されているか。
取組目標	・自己評価の結果を教員にも周知し、反省点については話し合いをして次年度に生かしていく。
取組内容 と成果	・園務の担当ごとに、自己評価の結果をもとに反省をしてもらい、次年度に向けての計画を立ててもらったようにしたため、改善に向けて活用することができた。
今後の課題 と改善策	・今後も自己評価の結果を謙虚に受け止め、見直しをして園運営の改善に努めていきたい。